資料１

教育総合データベースの進捗と
学校でのダッシュボードの活用について

令和6年10月30日

戸田市教育委員会

目次

■第１部

01. 教育総合DBの本市の取組における位置付け
（教育改革のコンセプト、教育を科学する取組）

02.教育総合DBの取組概要
■背景・目的
■昨年度までの取組状況
■R4～R5国の実証事業の振り返り

03.教育総合データベースの As is / To be

教育総合DBのこれまでを振り返り、目指す方向性を整理
→目指す方向性、観点等で助言等をいただきたい

■第２部

04.データベースの活用事例紹介（喜沢小）

05.学校でのデータベースの普段使いに向けた取組
→データの定期更新、学校へのヒアリング、研修実施、アラート機能実装等

06.今後の展望

学校での実際の活用状況やTobeを踏まえた市教委の取組
→データベースの構築、データ分析、個人情報保護法等に基づく措置、学校での活用等に向けて助言等をいただきたい

目次

■第１部

01. 教育総合DBの本市の取組における位置付け
（教育改革のコンセプト、教育を科学する取組）

02.教育総合DBの取組概要
■背景・目的
■昨年度までの取組状況
■R4～R5国の実証事業の振り返り

03.教育総合データベースの As is / To be

教育総合DBのこれまでを振り返り、目指す方向性を整理
→目指す方向性、観点等で助言等をいただきたい

■第２部

04.データベースの活用事例紹介（喜沢小）

05.学校でのデータベースの普段使いに向けた取組
→データの定期更新、学校へのヒアリング、研修実施、アラート機能実装等

06.今後の展望

学校での実際の活用状況やTobeを踏まえた市教委の取組
→データベースの構築、データ分析、個人情報保護法等に基づく措置、学校での活用等に向けて助言等をいただきたい

脚下照顧から

AIでの代替は難しい力などの育成

生成AIの光（相談的活用）と影

AIでは代替できない能力の育成と、**AIを活用できる能力**
21世紀型スキル、**汎用的**スキル、**非認知的（社会情緒的）**スキルを育成

産官学と連携した知のリソースの活用

産官学と連携した知のリソースの活用。それも、**ファーストペンギン**を目指すことで、
安価で効率的に、最先端の質の高い教育が提供されるはず

「経験と勘と気合い（３Ｋ）」から「客観的な根拠」への船出

教育の**EBPM**の重要性の認識（**量的と質的エビデンス**）
→ **episode-based**　から **evidence-based** へ
→ **evidence-based** から **evidence-informed** へ
→ EBPMから**EIPP**（Evidence Informed Policy and Practice）へ

授業や生徒指導等を科学する

●教育の現場は**科学的**であるべき　**science based** へ
●**優れた教師の経験や勘、匠の指導技術を、言語化・可視化・定量化**するなど、**暗黙知を共有化**したり**形式知へ転換**したりして、若手に**効率的・効果的に伝承**していくべき。そのために**教育データを積極的に利活用**していくべきである

教育を科学する当面の方向性

現状・課題

当面の方向性

1 授業を科学する

- ✓ 教師の経験と勘と気合い（3K）のみによる教育から脱却し、客観的な根拠に基づく教育への転換が必要
- ✓ 子供たちが主体的に自らの考えを外化したり、学びのプロセスを共有したりする中で、**子供も教師もリフレクションが深まる気付きを多く得る**ことが必要

- ➢ アクティブ・ラーニング（AL）指導用ルーブリック・戸田市版SAMRモデルの活用と児童の変容の見取りによる、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けたデータ駆動型の授業研究を推進**
- ➢ 全ての教師の指導改善に繋げられるよう、**多角的な視点からの匠の技の可視化やAL指導用ルーブリックの更なる改善**について取り組む

2 生徒指導を科学する

- ✓ 様々な生徒指導上の課題は早期発見・早期対応が不可欠であるが、**教師や保護者などの気付きや観察だけでは限界がある**
- ✓ 不登校が子供達の学力面・情意面にどのような影響を及ぼしているか、客観的に把握する必要

- ➢ 教育総合データベースにより、子供達の**不登校等のSOSの早期発見・対応**を試行することで、**積極的な生徒指導を補強**
- ➢ 専門家による不登校対策ラボラトリー「ぱれっとラボ」において、本市の**不登校対策・支援に関する調査・研究・評価**を実施

3 学級・学校経営を科学する

- ✓ 子供の社会経済的背景等の困難を考慮した学級・学校単位での学力等の伸び、**学校の理解度や信頼度などの可視化・定量化が必要**
- ✓ 教師にとってのAL指導用ルーブリックのような、学校管理職にとって学校経営を自己・他者評価するような視点が必要

- ➢ 各種調査の分析とダッシュボード機能等を通じて、**学級・学校経営を科学する取組を推進**
- ➢ アセスメント・ファシリテーションのため、**学校経営ルーブリックや学級経営リフレクションを活用**

背景

- 戸田市教育委員会では、これまでEBPM・EIPPの推進を掲げ、各種データを分析し、支援等につなげられるよう取り組んできた。
- 一方、**様々なデータを保有しつつも**、多くの場合、個々のデータの個別の活用にとどまり、**困難を抱える子供たちの支援において、部局横断的なデータの利活用が進んでいなかった**。

目的

- **こどもに関する各種データ**について、個人情報の保護や倫理面での配慮を前提として、**教育分野を軸**にした**「教育総合データベース」を整備**するとともに、**分野を越えて連携**させることを通じて、**教師による「見守り」・「見届け」を補完・補強**する
- **データ取得や活用の負担が軽減**され、データベースが**学校や教育委員会の業務の中に位置付いている**
- データベースが**身近な分析基盤として関係者に認知**され、**データ利活用の風土が醸成**されている

2019年～ データを効果的に活用するための体制の整備 （EBPM･EIPPの推進）

- 2019年7月、**戸田市教育政策シンクタンクを設置** → 本市のEBPM推進の核に
- データ利活用に専門的な知見を有する**教育行政プロ採用職員の採用**
- 多様なバックグラウンドを有する専門家を外部アドバイザーとして委嘱

▼

体制を整備した上で、以下について検討を進めてきた

●教育委員会内におけるデータの整備や部局を横断したデータの連携に向け、どのようなことができるか

●その実現に向けた課題及びその解決策は何か

▼

- 検討を踏まえ、2021年7月に開催された、第1回アドバイザリーボードにおいて、教育総合データベース構想を紹介

2022年～【デジタル庁実証事業】教員総合データベースの構築と一部学校での試行

- **2022年2月**、デジタル庁「こどもに関する各種データの連携による支援実証事業」に応募
  - 第１回アドバイザリーボードで構想を紹介したものを「教育総合データベース構築事業」として計画書を提出
  - 2022年4月、デジタル庁実証事業の実施団体として採択
- **2022年7月**、教育政策シンクタンク **アドバイザリーボード（第２回）開催**
  - 教育総合データベース（デジタル庁実証事業）について紹介
- **2022年11月**、教育政策シンクタンク **アドバイザリーボード（第３回）開催**
  - 教育総合データベースの検討状況及び「教育データの利活用に関するガイドライン（案）」について紹介
- **2022年12月**、戸田市教育委員会定例会（第１２回）が開催
  - 「教育データの利活用に関するガイドライン（案）」について説明し、了承を得る → ガイドラインを公開
- **2023年1～2月**、データベース稼働に向けた準備、**プッシュ型支援の試行**
- **2023年3月**、教育政策シンクタンク **アドバイザリーボード（第４回）開催**
  - 教育総合データベース（デジタル庁実証事業）の進捗状況について紹介
- **2023年3月～4月**、デジタル庁へ**成果報告書を提出**し、公開される

▲第2回資料等　▲第3回資料等　▲第4回資料等　▲デジタル庁実証事業

2023年～【こども家庭庁実証事業】データベースを再構築し、全校で活用開始

- **2023年1～3月**、令和５年度の事業者公募
  - システム構築事業者として、株式会社Ddrive、データ分析事業者として内田洋行株式会社等に決定
- **2023年4月**、こども家庭庁「こどもデータ連携実証事業」に応募、実施団体として採択
  - 昨年度の「教育総合データベース構築事業」の課題を踏まえた新たな計画書を提出
  - 2023年4月、こども家庭庁実証事業の実施団体として採択
- **2023年10月**、教育政策シンクタンク アドバイザリーボード（第５回）開催
  - 教育総合データベース（令和５年度こども家庭庁実証事業）、データ分析の進捗について紹介
- **2023年12月**、教育総合データベースの一部データを一覧・可視化したダッシュボードを構築し、全校へ連携、プッシュ型支援の検証開始
- **2024年3月**、教育政策シンクタンク アドバイザリーボード（第６回）開催
  - ダッシュボードの支援への活用状況や「教育データの利活用に関するガイドライン（改正案）」について紹介
- **2024年3月**、戸田市教育委員会定例会（第3回）開催
  - 「教育データの利活用に関するガイドライン（案）」について説明し、了承を得る → ガイドラインを公開
- **2024年3月～4月**、成果報告書をこども家庭庁へ提出し、公開される

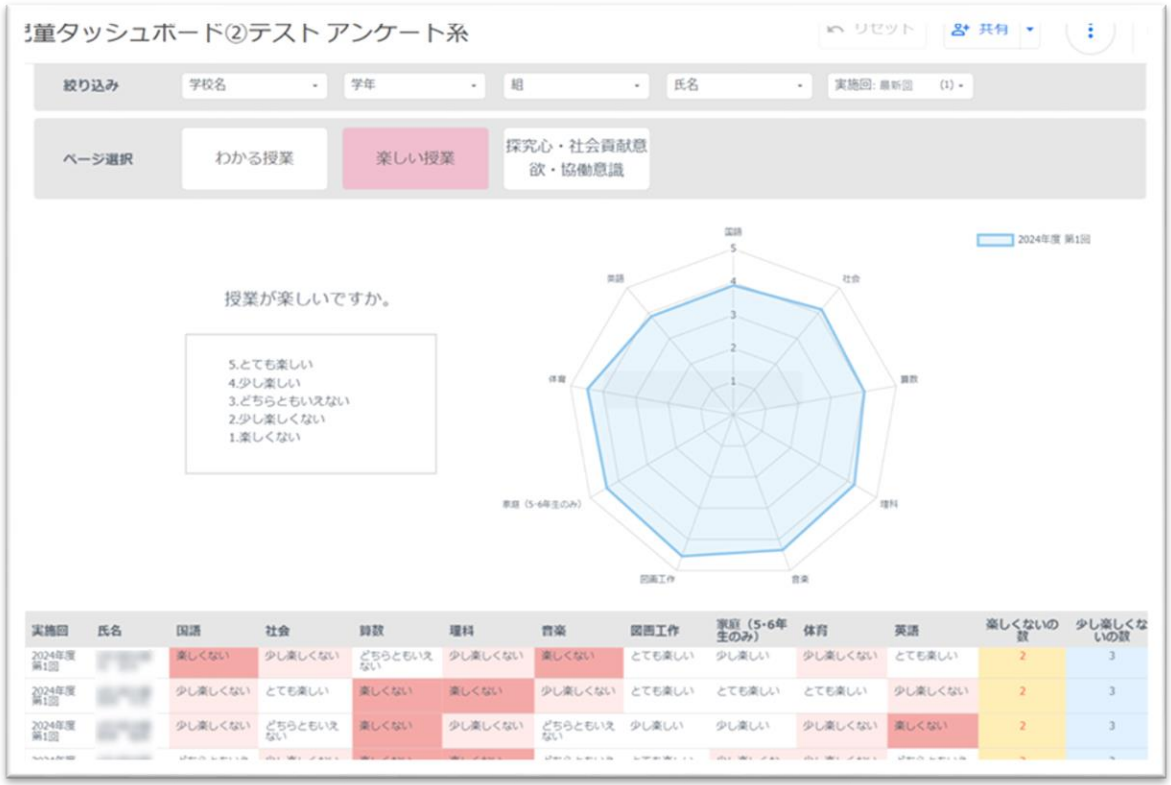
▲第5回資料等

▲第6回資料等

▲こども庁実証事業

2024年～市費予算を確保し、戸田市の事業として継続

- 2024年4月～、2年間の国の実証事業での取組を踏まえ、戸田市の事業として継続している
  - ➢ **不登校予測モデル**の運用・開発の継続に必要な**市費予算を確保できていないため運用休止中**
  - ➢ **データベース（ダッシュボード）**の構築、運用等に係る**市費予算は確保し、運用継続**



▲児童生徒ダッシュボード「授業が分かる調査」

ダッシュボードは、**市内全校で活用可能**な状況

- R4デジタル庁、R5こども家庭庁実証事業の採択を受けて、プッシュ型支援の実現に向け、データ利活用に必要なインフラ面の整備を中心に実現できた

搭載データごとのデータフォーマットは前回のアドバイザリーボードの資料として参考に公表している

●データベース構築

搭載データ・データレイアウトの定義、データの加工、
データの取得方法の改善、データの更新など

教職員の**個人アカウントに紐づけ**て、**所属や職位に応じたアクセス権**を設定

●ダッシュボードの構築

データの見せ方の検討・実装、ダッシュボードの種類の充実、アクセス権限の設定など

●不登校予測モデルの開発・運用

予測に活用するデータや予測時期の検討、モデルのチューニング、
予測の実施、予測結果のダッシュボードへの搭載など

●プッシュ型支援の試行

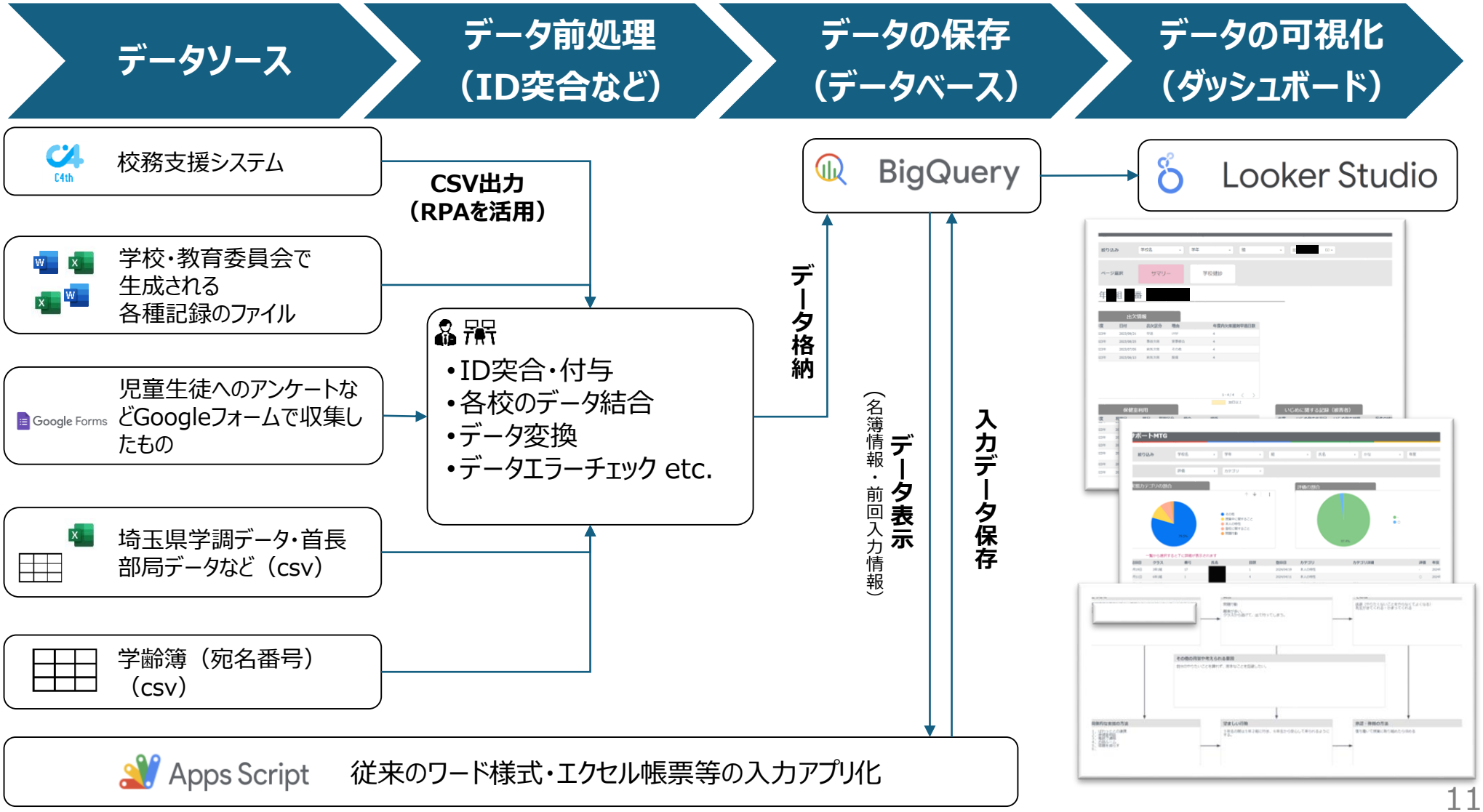
市内全校でダッシュボードの活用を開始（R5年12月～）

●個人情報保護法令に基づく措置、プライバシーに配慮した取組

教育総合データ利活用のガイドラインの策定（R4.12）・改訂（R6.3）、
目的外利用・外部提供依頼に係る対応、データ取得時の利用目的の明示、
オプトアウトへの対応、保護者宛て文書の送付、広報紙等での積極的な周知

●昨年度中に実現したこと② ～教育総合データベースのワークフロー～

- 様々な形式で取得したデータを、データレイアウトに合わせて加工し、Big Queryに格納
- Looker Studioでデータをグラフや表など見やすい形式で閲覧できるダッシュボードを構築



●昨年度中に実現したこと③ ～教育総合データベースに格納されているデータ～

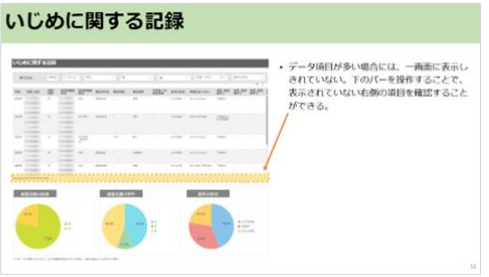
■ 児童生徒に関するアンケート・記録を中心に蓄積
- 児童生徒の学習面・生活面に関するアウトカムのデータ（テスト・アンケート）
- 児童や生徒に関する校務系のデータ（出欠席や保健室利用状況、いじめに関する記録など）

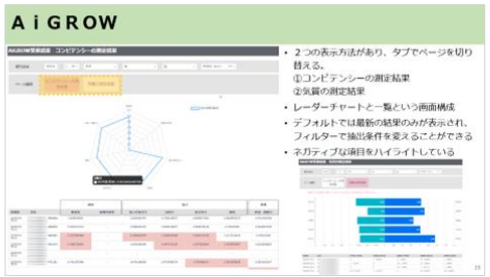
■ 整理・格納できていないデータ
- どのような学習を行っているかという日々の活動情報（ステディログ的なもの）
- 教師が教室でどのような取り組みをしているかを記録したもの　など

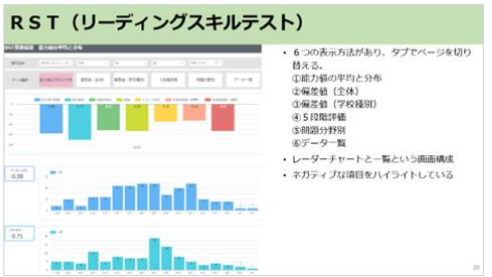
タイプ	名称	取得頻度	取得方法
テスト・アンケート	埼玉県学力・学習状況調査（県学調）	年1回	県からROM送付／Excel
テスト	Reading Skill Test	年1回	事業者からROM送付／csv
アンケート	AiGROW（非認知能力アセスメント）	年2回	
	WEB-QU（学級満足度に関する調査）	年2回	学習eポータル内アプリから出力/Excel
	心の天気（一部の学校で実施）	毎日	事業者から送付/csv
	授業がわかる調査	年2回	Google Forms／csv
	学校生活に係るアンケート	年1回以上	
記録	いじめ等に関する記録	随時	Googleアプリ（独自開発）／csv
	長期欠席調査	月次	
	出欠席状況	週次	校務支援システムからDL／csv
	保健室利用状況	週次	
	学校健診結果	学期毎	
	教育相談（教育センター）利用記録	週次	相談員が入力／csv

●昨年度中に実現したこと④ ～ダッシュボード画面集（カテゴリ別）～

- データ項目ごとに集計画面を用意
- 概要を確認し、各データ項目の詳細を確認するには、そのデータの集計画面を選択







▲昨年度中に実現しなかったこと

- データベース、ダッシュボードという器はできたものの、データ利活用のインフラとして、必要な時に必要なデータを参照できるという状況には至らなかった

▲搭載データのタイムリーな連携

▲エビデンスのあるロジックに基づく、
適時の**アラート機能のダッシュボードへの実装**

▲子供達の支援に向けてデータの活用することについて、
具体的なユースケースを示すこと

▲学校のニーズに基づく追加データの搭載

▲データベース上での児童生徒と担任の紐づけ

各学校に「児童生徒ダッシュボード」を実装することができたが、学校にとってのマストアイテムにはなっていなかった。

データの活用が一部の教職員に止まり、
各学校での活用が進んでいなかった

教育総合データベースの As is / To be

取組全体の To be

・データを整理して一覧化することで、**教師による「見守り」・「見届け」を補完・補強**する
・**データ取得や活用の負担が軽減**され、データベースが**学校や教育委員会の業務の中に位置付いている**
・データベースが**身近な分析基盤として関係者に認知**され、**データ利活用の風土が醸成**されている

	To be（目指すところ）	As is （現況）	Problem（問題点）	Solution（考えられる手段）
①データベース（データ**保管場所**として）	• 教職員の業務負担が増えない形で、**日常的にデータ（インプット・アウトカム）が集積・蓄積**される • **必要なデータを必要な形で簡単に取り出すことができる**	• 取得頻度の低いデータについては格納できているが、**日常的に作成されているデータの更新が不定期**、または**そもそも格納できていない** • アウトカムの情報が中心で、**どのような指導・対応**（インプット・アクティビティ）**を行ったかのデータは未格納**	• 各校の各種記録の様式とその活用法がまちまちで、**統一的な入力フォーマットを準備できていない** • 表形式以外のデータはBig Queryに格納することはできない • **民間事業者の各種システム・サービスについて**学校単位・当該サービス内での活用を想定しており、**データ書き出し機能・API連携機能の提供が少ない**	• 各校で利用している**様式・取組の把握・**（できるだけ）**標準化** • より幅広い形式のデータを扱うことができるようなデータレイクとして整備
②データベース（データ**分析環境**として）	• **セキュアな分析環境**が整うことで関係者による試行的・探索的な分析のハードルが下がる • **グッド/バッドプラクティスのエビデンスが創出**され、**教育政策、現場での実践に活用される**	• 分析環境の基盤として整備しきれておらず、データベースを活用した分析の実践はほとんどない • どのデータを**どのように分析すれば児童生徒の支援に活用できるかという仮説設定ができていない**	• ダッシュボードをはじめ、**分析に必要な機能やインターフェースの検討や実装が十分でない** • データ分析のための仮説設定や現場への落とし込みを行うために必要な、**現場及び研究的な知見を持つ人材が不足**している	• セキュアかつ柔軟性の高い分析環境の提供 • **産官学が連携した共同研究の推進**
③ダッシュボード	• **ダッシュボードを眺めるだけで注目すべき情報や示唆**が得られ、**教職員の業務の参考に**される • **日々情報が更新**され、**見ることが習慣化**する	• **データ更新頻度が少ない**ため、日々の業務の中で参照することが現場で習慣化していない • データ利活用の事例検証が不十分で、**多種のデータからどのデータを優先的に見ればよいかがわかりにくい**	• **取得頻度の多いデータが格納されていない。**（年1回や学期毎といったデータが大半） • データ更新作業の大半が手動なため**更新作業負担が重く**、ダッシュボードの更新頻度を上げることが難しい	• **頻度の高いデータの格納**（スタディログのデータや、日々の指導記録など） • 校務支援システムや各種サービスとの**API連携**

※ここでいうデータとは、数値で表されるものだけではなく、自然言語で書かれた記録（例えば生徒指導の対応記録）等も含む

教育総合データベースの As is / To be

取組全体の To be

- ・データを整理して一覧化することで、**教師による「見守り」・「見届け」を補完・補強**する
- ・**データ取得や活用の負担が軽減**され、データベースが**学校や教育委員会の業務の中に位置付いている**
- ・データベースが**身近な分析基盤として関係者に認知**され、**データ利活用の風土が醸成**されている

	To be（目指すところ）	As is （現況）	Problem（問題点）	Solution（考えられる手段）
①**データベース**（データ**保管場所**として）	• 教職員の業務負担が増えない形で、**日常的にデータ**（インプット・アウトカム）**が集積・蓄積**される • **必要なデータを必要な形で簡単に取り出すことができる**	• 取得頻度の低いデータについては格納できているが、**日常的に作成されているデータの更新が不定期**、または**そもそも格納できていない** • アウトカムの情報が中心で、**どのような指導・対応**（インプット・アクティビティ）**を行ったかのデータは未格納**	• 各校の各種記録の様式とその活用法がまちまちで、**統一的な入力フォーマットを準備できていない** • 表形式以外のデータはBig Queryに格納することはできない • **民間事業者の各種システム・サービスについて**学校単位・当該サービス内での活用を想定しており、**データ書き出し機能・API連携機能の提供が少ない**	• 各校で利用している**様式・取組の把握・**（できるだけ）**標準化** • より幅広い形式のデータを扱うことができるようなデータレイクとして整備
②**データベース**（データ**分析環境**として）	• **セキュアな分析環境**が整うことで関係者による試行的・探索的な分析のハードルが下がる • **グッド/バッドプラクティスのエビデンスが創出**され、**教育政策、現場での実践に活用される**	• 分析環境の基盤として整備しきれておらず、データベースを活用した分析の実践はほとんどない • どのデータを**どのように分析すれば児童生徒の支援に活用できるかという仮説設定ができていない**	• ダッシュボードをはじめ、**分析に必要な機能やインターフェースの検討や実装が十分でない** • データ分析のための仮説設定や現場への落とし込みを行うために必要な、**現場及び研究的な知見を持つ人材が不足**している	• セキュアかつ柔軟性の高い分析環境の提供 • **産官学が連携した共同研究の推進**
③**ダッシュボード**	• **ダッシュボードを眺めるだけで注目すべき情報や示唆**が得られ、**教職員の業務の参考に**される • **日々情報が更新**され、見……習慣……する	• **データ更新頻度が少ない**ため、日々の業務の中で参照することが現場で習慣化していない • ……分で、**多種のデータからとのデー**……かりにくい	• **取得頻度の多いデータが格納されていない。**（年1回や学期毎といったデータが大半） • データ更新作業の大半が手動なため**更新作**……ードの更新頻度を上げることが難しい	• **頻度の高いデータの格納**（スタディログのデータや、日々の指導記録など） • 校務支援システムや各種サービスとの**API連携**

• データの利活用は日々の教育実践の背中を押すもの

• データベース、児童生徒ダッシュボードに教育実践の魂を込める

～各学校でダッシュボードが本当の意味で活用され、普段使いされること～

目次

■第１部

01. 教育総合DBの本市の取組における位置付け
（教育改革のコンセプト、教育を科学する取組）

02.教育総合DBの取組概要
- ■背景・目的
- ■昨年度までの取組状況
- ■R4～R5国の実証事業の振り返り

03.教育総合データベースの As is / To be

教育総合DBのこれまでを振り返り、目指す方向性を整理
→目指す方向性、観点等で助言等をいただきたい

■第２部

04.データベースの活用事例紹介（喜沢小）

05.学校でのデータベースの普段使いに向けた取組
→データの定期更新、学校へのヒアリング、研修実施、アラート機能実装等

06.今後の展望

学校での実際の活用状況やTobeを踏まえた市教委の取組
→データベースの構築、データ分析、個人情報保護法等に基づく措置、学校での活用等に向けて助言等をいただきたい

喜沢小でのデータ収集・活用実践事例

取組概要

- 教職員作成の各種記録について、ウェブアプリ化によってデータの収集・一元化を実施。

目的

- 喜沢小学校では、多層支援の取組の一環として「RTIミーティング」や「サポートミーティング」を行っている。
- ミーティング自体の議事録とミーティング後の経過観察の記録を次回のミーティングの中で活用する。
- 作成している日々の生徒指導記録などをミーティング前に確認しておく必要がある。

存在していた課題

- 各記録の個別ファイルだと、一覧性、検索性に難あり。また整理に労力がかかる。
- Excelでの管理を試みたが限界あり。

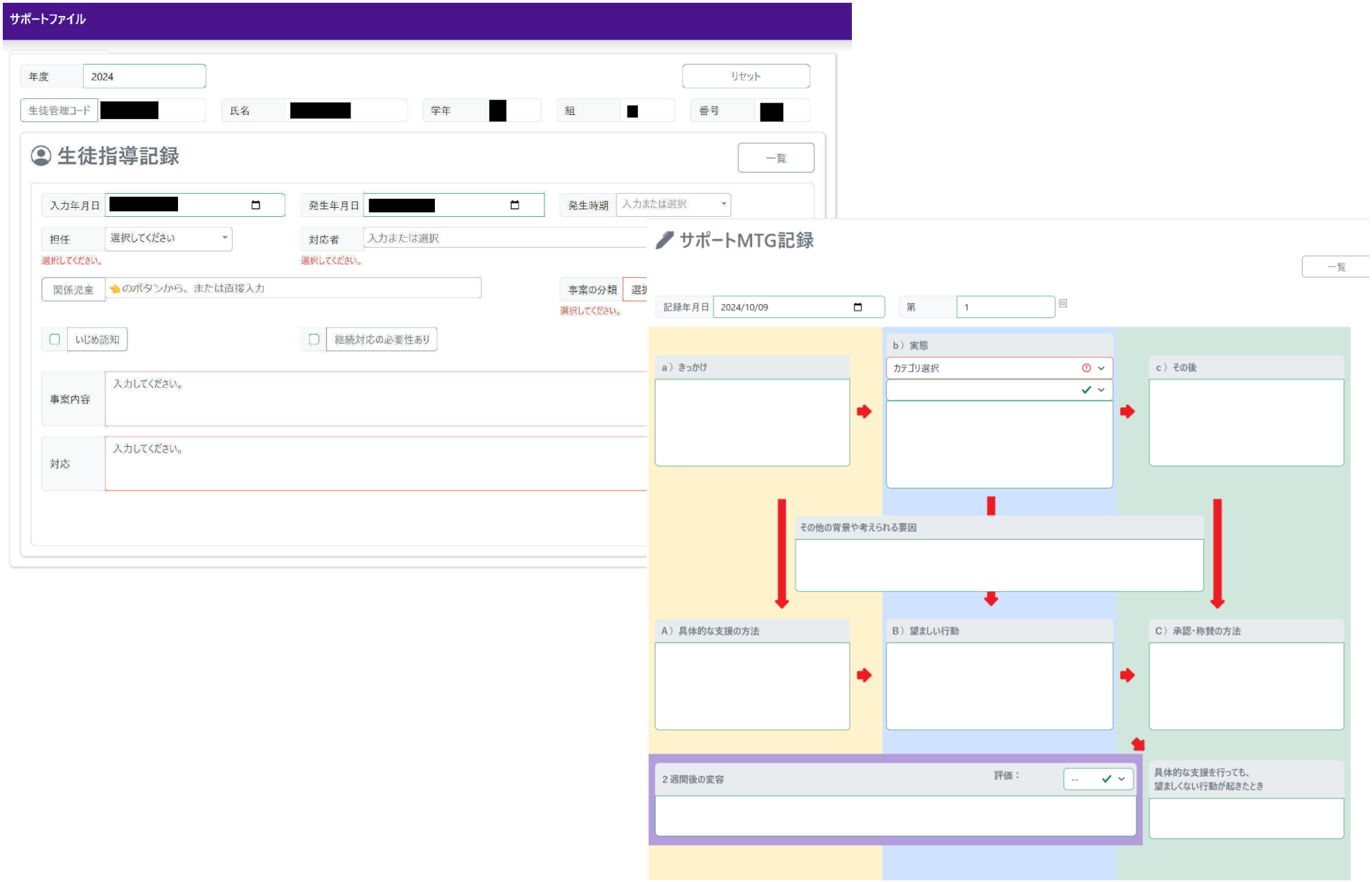
ウェブアプリ化した各種記録

- 生徒指導記録など
- 専門員（スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど）による記録
- ぱれっとルーム（校内サポートルーム）来室記録
- サポートMTG記録

ポイント

- 学校の顕在ニーズ（必要感）から開発がスタート
- 情報入出力のワンストップ化
- データの散逸を防ぎ、自然に蓄積が進む。対応とその後の様子がわかることで、グッド/バッドプラクティスの区別・蓄積が可能

喜沢小で使用しているウェブアプリ



- 教育総合データベースを含めた学校現場でのデータの活用状況について、喜沢小学校から説明いただきます。

データを活用した喜沢小学校の取組

～「こどもまんなかの教育」を実現するために～

一人一人の多様なWell-beingを実現する　～すべての児童が「学校生活が楽しい」「学びが楽しい」と言える学校～

「多層型支援で児童と共に創る～PBS×個別最適な学び～」

学び支援

行動支援

第３層支援

個別の指導計画、個別指導 等

個別の行動支援計画、個別支援 等

第２層支援だけでは効果が
十分に得られない児童への個別的支援

プロジェクト
ＲＴＩミーティング

プロジェクト・**サポートミーティング**
ケース会議・就学支援委員会

第２層支援

少人数での指導
追加ヒント・教材提供 等

喜沢っ子支援ファイル、
意図的・計画的な称賛・承認 等

第１層支援だけでは効果が十分に
得られない児童への配慮や追加の支援

プロジェクト
ＲＴＩミーティング

プロジェクト
児童理解・支援ミーテイング

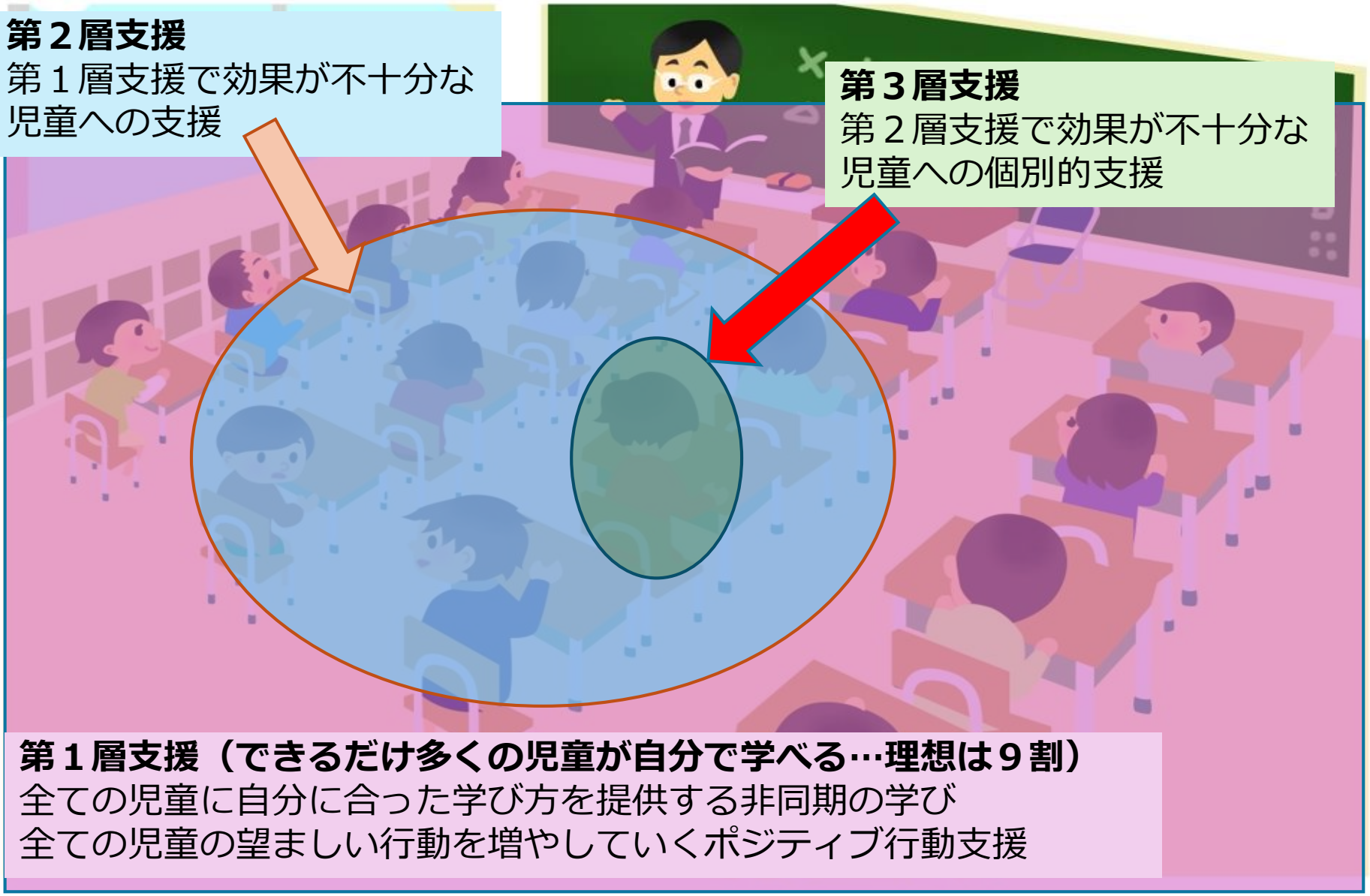
非同期の学び
学びの選択、自己調整力の向上、環境調整
教科の本質をとらえた授業改善 等

第１層支援

スクールワイドＰＢＳ
行動支援計画、児童・教師キャンペーン
環境調整、学級経営×応用行動分析 等

すべての児童が「学校生活が楽しい」「学びが楽しい」と感じられる全体的な支援

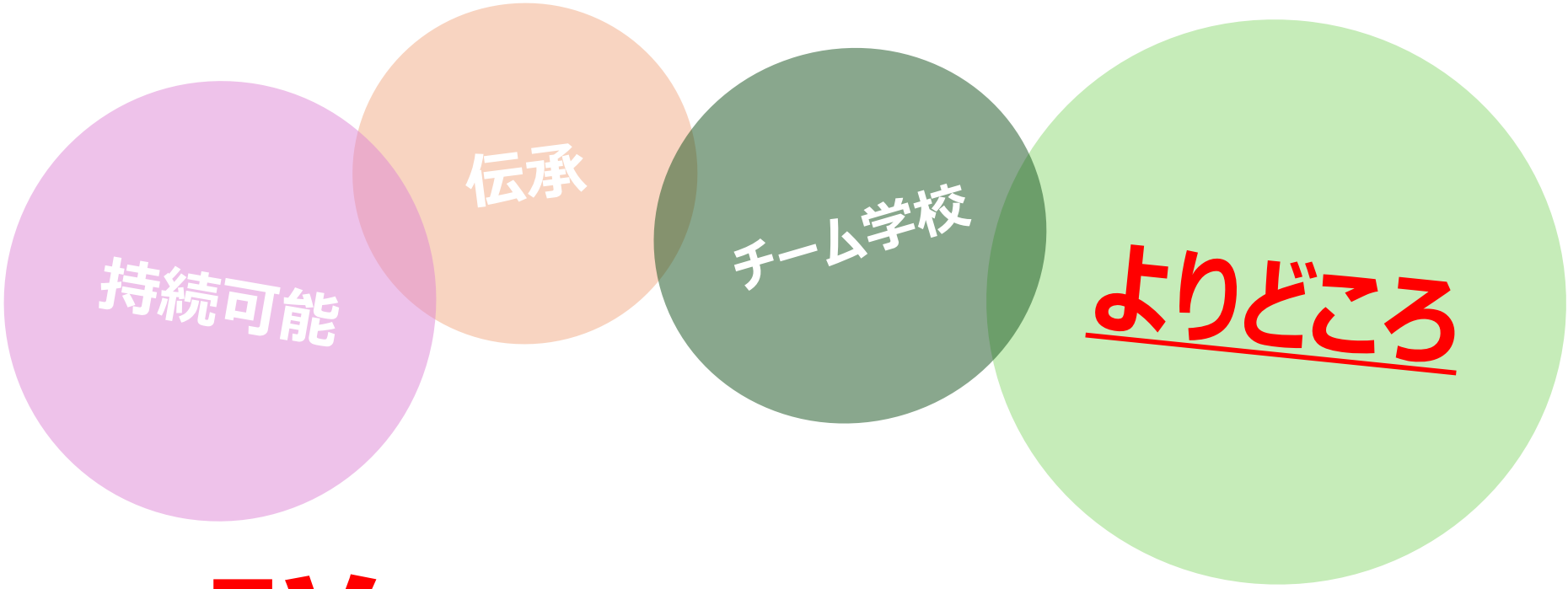
「学校生活が楽しい」「学びが楽しい」１００%をめざして
【多層型支援システム】



第２層支援
第１層支援で効果が不十分な児童への支援

第３層支援
第２層支援で効果が不十分な児童への個別的支援

第１層支援（できるだけ多くの児童が自分で学べる…理想は９割）
全ての児童に自分に合った学び方を提供する非同期の学び
全ての児童の望ましい行動を増やしていくポジティブ行動支援



脱３Ｋ（経験・勘・気合）

教師の思い込みによる根拠のない指導や支援からの脱却

ダッシュボード【データの一元化・共有化】

戸田市共通

出欠状況
保健室利用状況
いじめに関する記録
長欠調査
教育相談
授業がわかる調査
県学力・学習状況調査
Q-Uアンケート
学校生活アンケート
Ai GROW
RST（リーディングスキルテスト）

×

喜沢小オリジナル

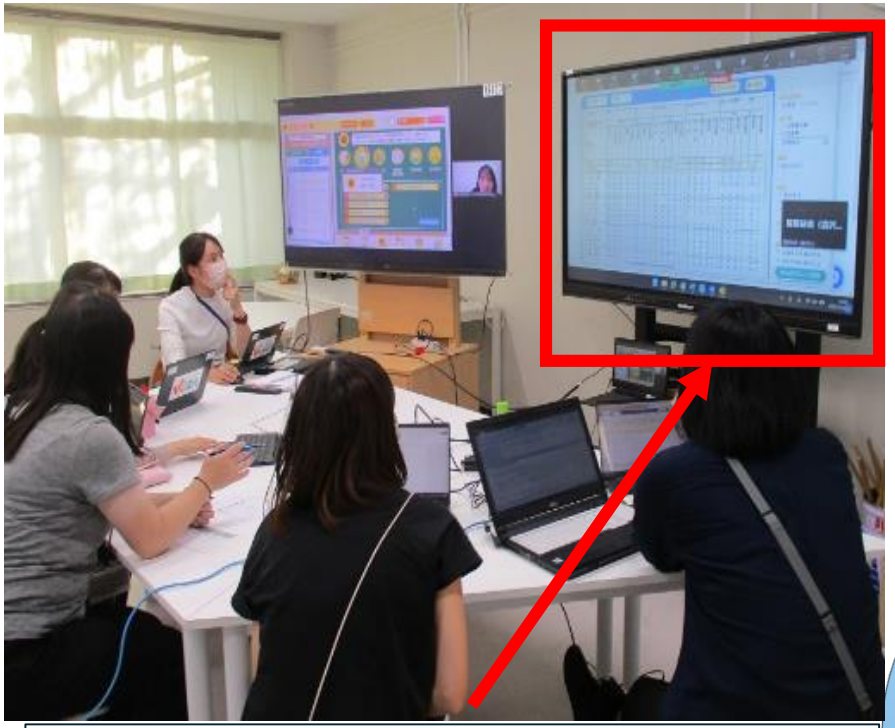
生徒指導記録
専門員記録
ぱれっとルーム記録
サポートミーティング
支援ファイル
（日本語指導記録）

・データの一元化
→「どこに?」から「ここに!」
・学校で入力
→タイムラグなし

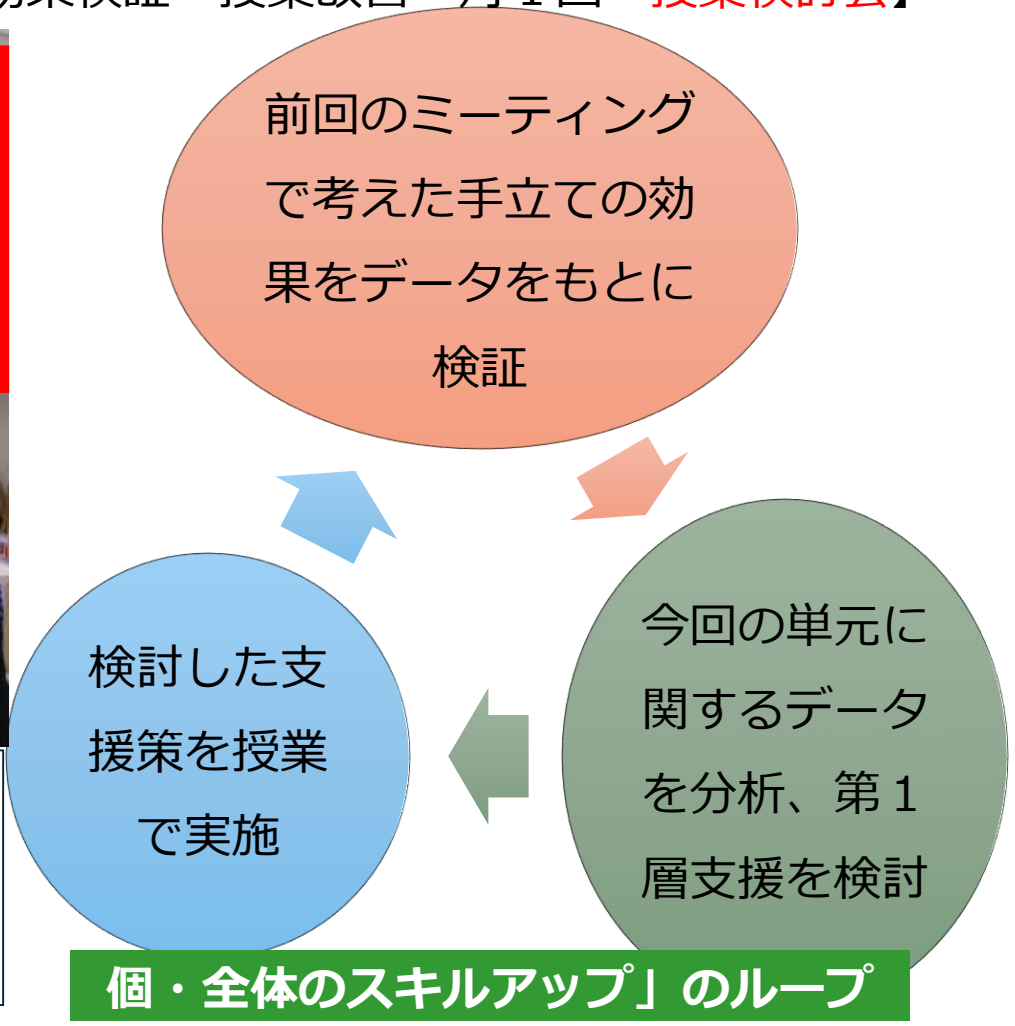
「どんな?」から「これが!」

RTI（Response To Intervention）ミーティング

【データを活用した多層型支援の効果検証・授業改善・月１回・授業検討会】



市販の成績入力ソフト（今年度・前年度）
デジタル教科書　　県学力・学習状況調査
まなび教材　　学びに向かう様子の記録
教材や学習コーナーの画像や動画　など

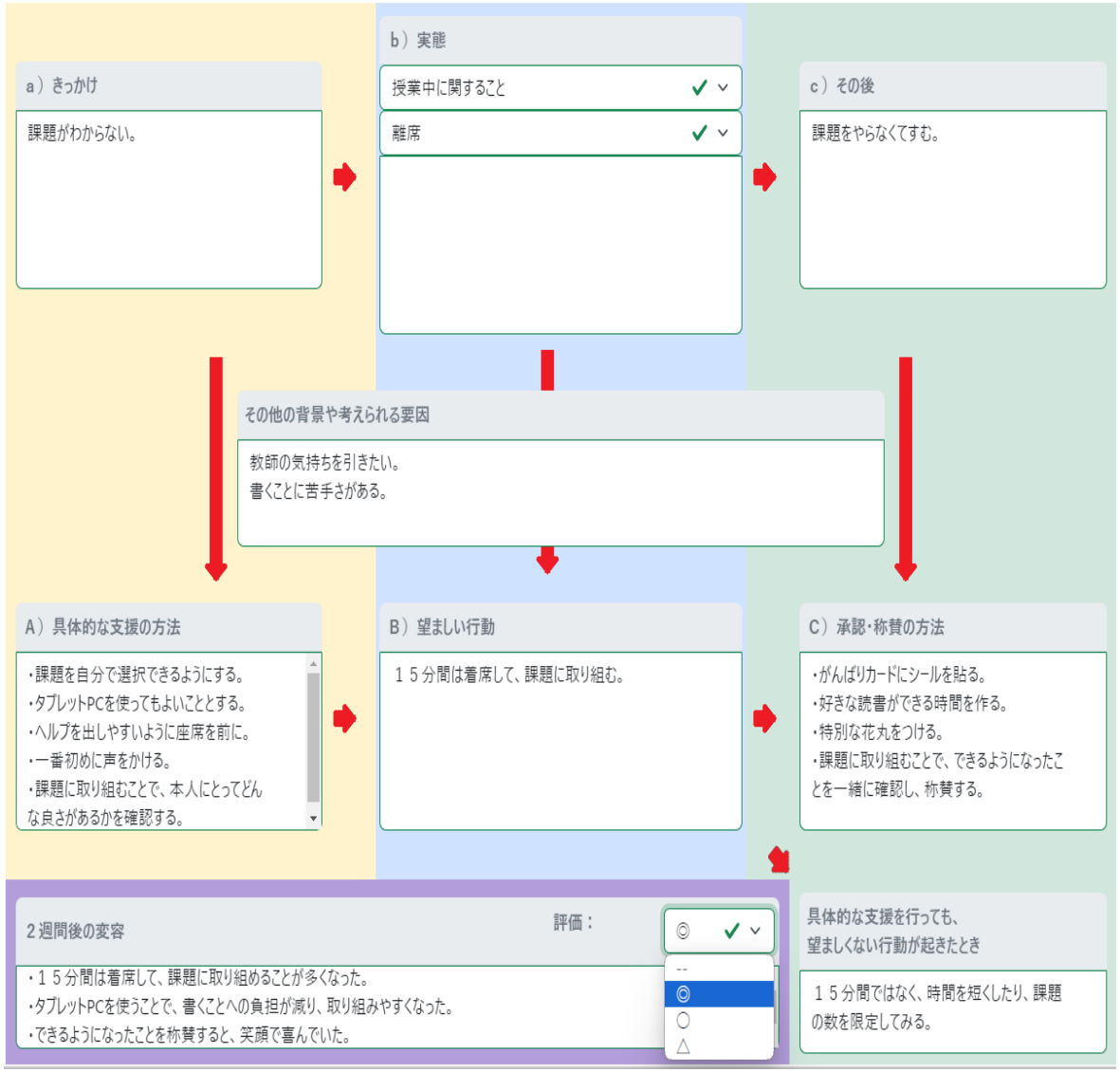


個・全体のスキルアップ」のループ

〇データ活用で、経験の少ない若手教員も自分の考えを発言することができる。
〇データ活用で、教師の思い込みによる指導を防ぐことができる。
● １層支援充実の話合いが、３層支援のための話合いなってしまうことがある

ABC分析で行うサポートミーティング

【第３層支援対象・週１回・１５分でのケース会議・同時開催可】



・ABC行動フレームの考え方を生かすシート
・現状とｺﾞｰﾙの行動をBとしてAとCを考える
・現状のabcは特別支援コーディネーターが**アセスメント**をして、担任と記入
・ゴールの望ましい行動Bは学年等で決定
★サポートミーティングではB確認
→AC検討
・２週間後の変容を見取り再検討
・b実態はカテゴリー選択し、２週間後の変容を評価する

「グッドプラクティス・バッドプラクティスの蓄積→共有→効果的な支援」のループ

児童生徒ダッシュボード（教育総合データベース）　【サマリー】

出席情報、シャボテン・保健室利用状況
いじめに関する記録、長期欠席調査、教育相談

喜沢小オリジナルダッシュボード【全体の傾向】

記録日	クラス	番号	氏名	発生日	分類	対応者	内容	対応
7月23日								

学級パワーアップ研修

【WEB Q－U × ABC分析フレーム＝学級経営力の向上】

こんな学級を目指します！シート　　7月　18日

誰とでも一緒に活動し、学校が楽しい・授業が楽しいと感じられる学級！

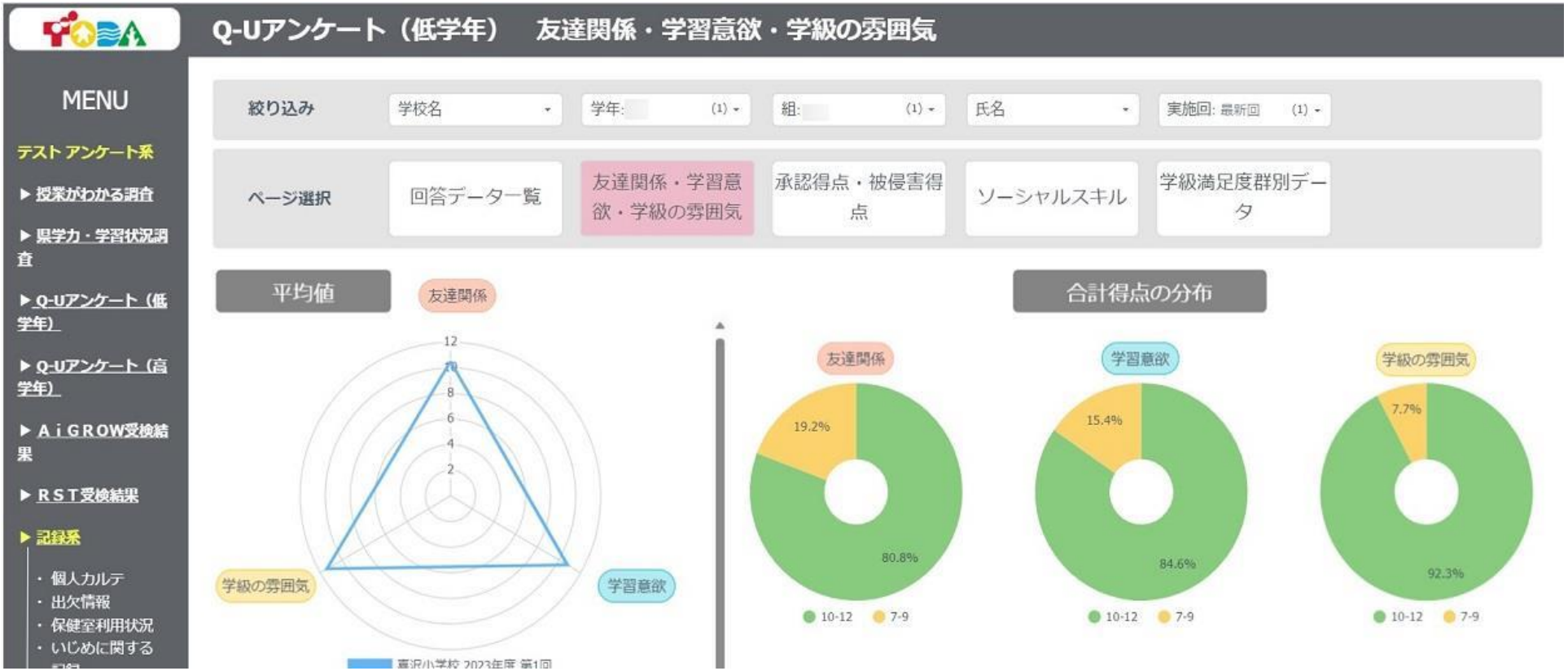
A：具体的な支援の方法	B：望ましい行動	C：承認・称賛の方法
・意図的に席替えをし、色々な人と繋がりを持てるようにする。 ・児童とのコミュニケーションを大切にし、話しかけやすい雰囲気を作る。 ・困ったときに、誰かに助けを求めることの大切さを伝える。 ・児童にどうしたいか考えさせ、自己決定できる場面を増やす。	友達や教師との関わりの中で、自分の思い（困りごとや要求）を他者に伝えられる。自己開示	・個の成長を認め、本人にフィードバックする。 ・解決の方法を一緒に考えたり、思いの実現が実現したりできるようにサポートする。 ・自分の思いを伝えてくれて嬉しいとImessageを返す。

現在の良さや課題
◎ＱＵアンケートで、学校満足群の割　合が多いことから承認・心理的安全性は高い状態になっている様子。 ◎日常のルーティーン化が進み、児童が見通しを持って行動できるようになってきた。その結果として、自分たちで声を掛け合って行動しようとする雰囲気が出てきている。 ◎学習意欲の向上が少しずつ見られるようになり、知識・技能面で成果が表れるようになった。 △特定の児童同士の関わりが多く、誰とでも関われるという実態にはなっていない。 △乱暴な言葉を使う様子がまだ見られる。 △行動を律する理由が「怒られるから」という外発的なものである児童が多い。

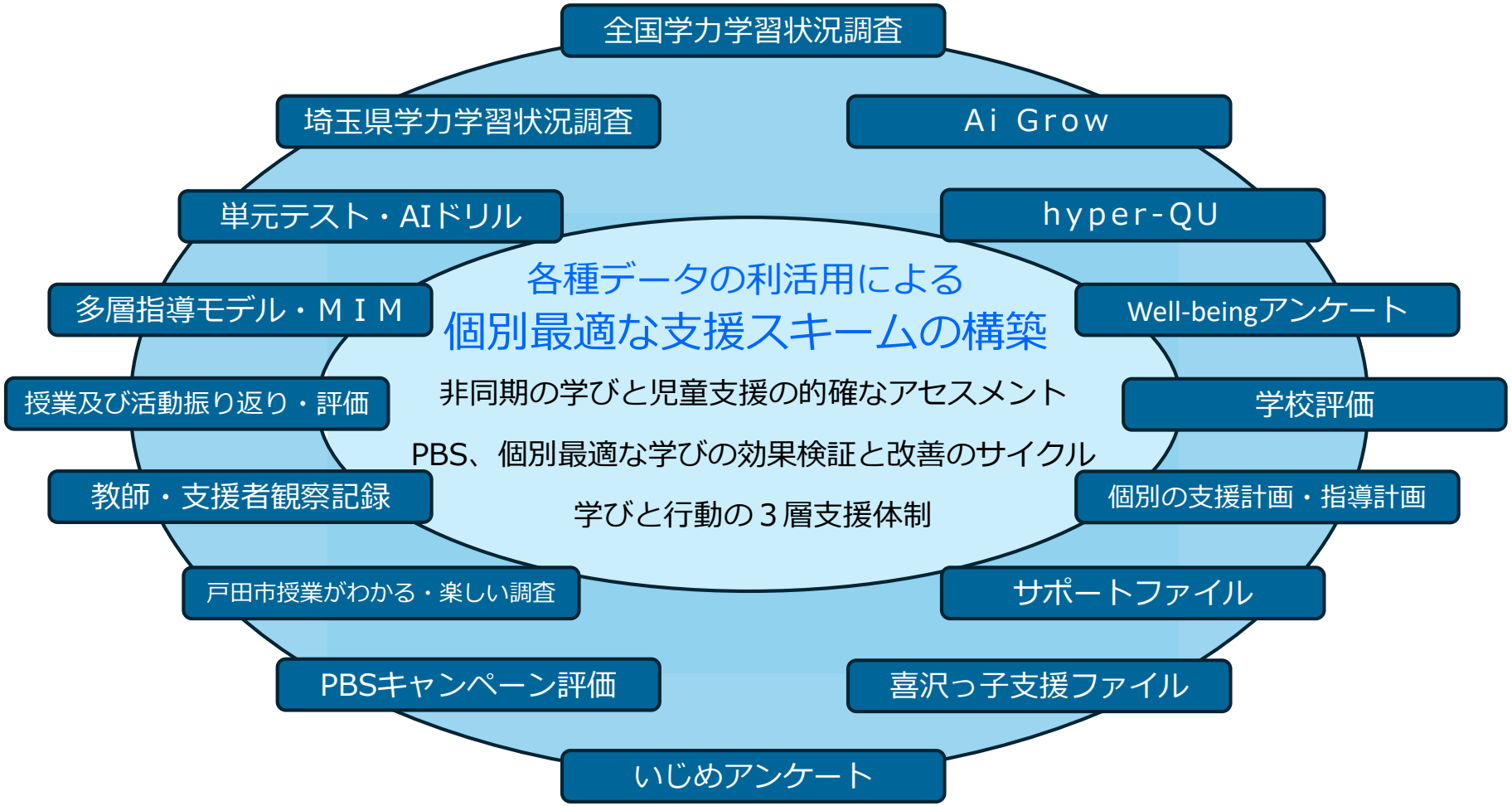
・データの**見方を学ぶだけの研修**は行わない。
・学校課題研究や教育活動等と**データを絡める**ことで、データの見方も自然と身につく。

「データ分析 × 学校課題研究 or 教育活動」で、データの必要感が生まれる。

児童生徒ダッシュボード（教育総合データベース）【テスト･アンケート系 】



授業がわかる調査、県学力・学習状況調査、Q-Uアンケート
AiGROW受検結果、RST受検結果



教育データを活用して子供の話ができるようになれば
若手教員もアクティブに話合いに参加できる
思い込み・勘違い・独りよがりもなくなる

- データの活用を始めた経緯等について、戸田第二小学校長（前喜沢小学校長）から口頭で説明いただきます。

学校での普段使いに向けた取組① ～DBの定期更新～

当面の方針

✓取得**頻度が月1回以上のデータは自動連携**を目指す。
✓取得頻度が月1回以上で自動連携が困難なデータは、1 週間以内の更新を目指す。
✓上述の頻度以外（年1回など）のデータは、1か月以内の更新を目指す。

▼ ▼ ▼

実施事項

- **更新頻度を改善**できた（4月～）
  - 8月末までに、一部のデータはデータベースへの自動連携を実現
  - 毎日取得するデータは概ね週次更新ができるようになった
  - 出欠情報データはAPI連携ができるように事業者と調整中

- **更新スケジュールを学校へ通知**（9月）
  - 見通しをもって研修やケース会議等に活用できる体制を整えた
  - 更新計画を踏まえて、各学校で積極的に活用いただくことを依頼した
  - 使用感、活用状況等をヒアリングさせていただくことを伝達（次スライド）

学校での普段使いに向けた取組② ～学校へのヒアリング～

- ダッシュボードの普段使いに向けて、課題や活用事例を把握するため、①全学校で使用している帳票（※）の回収、②10月以降市内全校でのヒアリングを実施

（※教育相談部会、生徒指導委員会等、校内で児童生徒の支援策について協議する際に使用するもの）

- ヒアリング事項は概ね以下のとおり

1　教育総合データベース・児童生徒ダッシュボード

(1)　現在のシステムの利用状況
- ○ どのような業務・会議等で利用しているか
- ○ 利用頻度や使用時間はどの程度か

(2) 校内研修の状況
- ○実施状況、担当者等

(3) パフォーマンス・安定性
- ○ ダッシュボードの処理速度はどうか

(4) セキュリティ
- ○ 懸念や改善事項はあるか
- ○ アクセス権限や権限管理についてどのように評価しているか

(5)活用によるメリット

(6)今後追加してほしい機能等、要望

2　児童生徒の支援方法等を検討する会議
- ○ 校内での児童生徒支援に係る会議(*)に係るデータの活用の現状について

*例：校内就学支援委員会、特別支援教育部会、生徒指導部会、教育相談部会

- ヒアリングでは学校からは以下のような声があがっている（一部抜粋）
※10月中旬時点

■ **肯定的な意見**

- **過去のデータがまとまっている**点がよい。個々の児童生徒について気になった時に参照している。
- ばらばらに入力していたものが一元化されるため、これまでの集約の手間を考えると**時短につながっている**。
- 生徒指導部会や教育相談部会で活用している。

■ **今後の方向性に関する意見**

- 教員が入力するもの・作成するファイルが散逸しないことが一貫した支援につながる。究極の形は「教務必携」代わりではないか。
- 教員が各自で生データを一から分析するのはまだハードルが高い。まずは**個々のデータを眺めるための環境整備**や、**データの置き場所のワンストップ化**の取組のほうが優先的に進めるべきことではないか。
- **データを蓄積することのメリット**や、**データがどう使えるか**についての**周知が必要**。校内で推進役を決めるなど、**特化した分掌も必要では**ないか。
- アラート機能は、初期対応・未然防止という点で助かる機能だと思う。

- 学校における普段の業務フローに、データベースを効果的に組み込み、浸透させていくためには、**教育委員会の指導主事等を核**として、**学校現場のキーパーソンに働きかけ**ていくことが不可欠
  - ➢指導主事を含めた教育政策室内の全職員でデータベースの進捗状況等について共有
  - ➢各指導主事が業務におけるダッシュボードの**効果的な活用方法を検討**し、**各学校に働きかける**

学校での普段使いに向けた取組④ ～ダッシュボードでのフィードバックの実施～

- ダッシュボードを学校の業務フローの中に、効果的に落とし込んでいく必要がある
- **「授業がわかる調査」のフィードバックを**Excelから**ダッシュボード上で実施**する方法に変更
  - ➢ **ダッシュボードへのアクセス機会の増加**
  - ➢ ワンストップでみられるようになり、**経年比較が可能**になった。

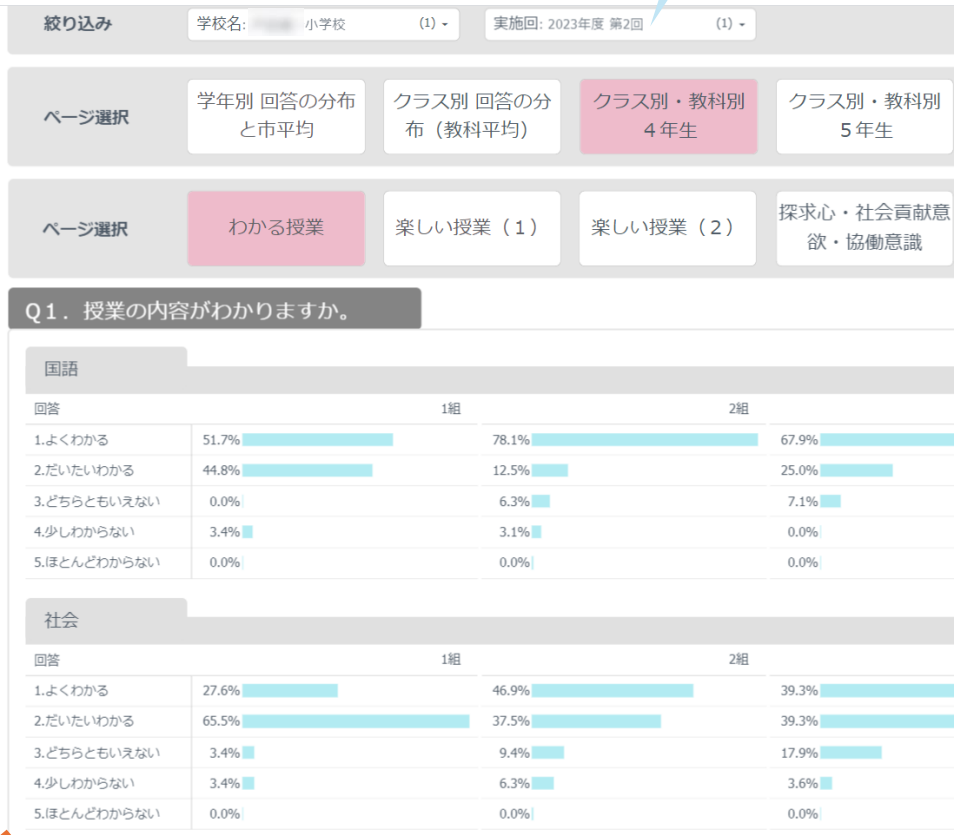
2021年以降のデータが閲覧可能

自動保存 オフ　令和5年度第2回授業がわかる調査集計結果（小学校）

ファイル　ホーム　挿入　描画　ページ レイアウト　数式　データ　校閲　表示　自動化

O18

	I	J	K	L	M	N	O	P
2	●授業の内容がわかりますか。							
3	国語	学年全体	1組	2組	3組	4組	5組	
4	よくわかる	61.7%	51.7%	78.1%	67.9%	48.4%		
5	だいたいわかる	31.7%	44.8%	12.5%	25.0%	45.2%		
6	どちらともいえない	4.2%	0.0%	6.3%	7.1%	3.2%		
7	少しわからない	2.5%	3.4%	3.1%	0.0%	3.2%		
8	ほとんどわからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
9	わかる計	93.3%	96.6%	90.6%	92.9%	93.5%		
10								
11	算数	学年全体	1組	2組	3組	4組	5組	
12	よくわかる	52.1%	41.4%	56.3%	44.4%	65.5%		
13	だいたいわかる	28.2%	41.4%	25.0%	29.6%	17.2%		
14	どちらともいえない	10.3%	10.3%	12.5%	11.1%	6.9%		
15	少しわからない	6.8%	6.9%	0.0%	11.1%	10.3%		
16	ほとんどわからない	2.6%	0.0%	6.3%	3.7%	0.0%		
17	わかる計	80.3%	82.8%	81.3%	74.1%	82.8%		



学校での普段使いに向けた取組⑤ ～ダッシュボードへのアラート機能の実装～

- 様々な業務を抱える中で、ダッシュボードを閲覧できる時間は限られている
- **プッシュ型支援の実現には、支援を要する子供たちの絞り込みが必要**で、**アラート機能は不可欠**

【対応状況】

- **ネガティブな回答はハイライト**して強調、グラフにより**ビジュアル化**するなど工夫

	国語	社会	算数	理科	英語	ほとんどわからないの数	少しわからないの数
	ほとんどわからない	ほとんどわからない	よくわかる	ほとんどわからない	ほとんどわからない	4	0
	少しわからない	少しわからない	少しわからない	少しわからない	-	0	4
	だいたいわかる	少しわからない	少しわからない	少しわからない	よくわかる	0	3
	どちらともいえない	少しわからない	だいたいわかる	少しわからない	少しわからない	0	3
	だいたいわかる	ほとんどわからない	だいたいわかる	ほとんどわからない	よくわかる	2	0
	少しわからない	どちらともいえない	どちらともいえない	ほとんどわからない	だいたいわかる	1	1
	少しわからない	ほとんどわからない	よくわかる	よくわかる	よくわかる	1	1
	よくわかる	よくわかる	よくわかる	ほとんどわからない	少しわからない	1	1
	どちらともいえない	少しわからない	よくわかる	よくわかる	ほとんどわからない	1	1

- 教育委員会としては**不登校の増加が大きな課題**であり、早期対応のため、予兆を検知できるよう**ルールベースのロジックに基づくアラート機能の実装に向けて検討中**

（不登校等に係るアラートが実装できたら、貧困、虐待等の他の課題の予兆検知にも取り組むことを想定）

- ➢ 過去の実証結果を踏まえ、エビデンスに基づく予測モデルについて検討中
- ➢ ロジック構築に向けて、データ分析に知見のある職員が中心となり、データの分析や文献等に当たる
- ➢ ロジック構築ができたら、ダッシュボード上での見せ方を検討し、実装

今後の展望

取組全体の To be

・データを整理して一覧化することで、**教師による「見守り」・「見届け」を補完・補強**する
・**データ取得や活用の負担が軽減**され、データベースが**学校や教育委員会の業務の中に位置付いている**
・データベースが**身近な分析基盤として関係者に認知**され、**データ利活用の風土が醸成**されている

「各学校でデータベースが本当の意味で活用され、普段使いされること」を目指し、年度末に向けて、データベースの機能追加やデータ連携方法の改善等に取組むとともに、グッドプラクティスの横展開を図っていく

今後の取組予定

- 更新方法・頻度の改善、データベースの可用性の向上（データ取得方法の見直し、API連携の検討）
- 学校ヒアリングにおける意見等を踏まえたデータベースの拡張・改修
- 適時のアラート機能のダッシュボードへの実装（ロジック検討、ダッシュボードへの実装の調整）
- ユースケースの紹介
- 教職員を対象とした研修の実施
- ダッシュボード（サポートミーティング版）の標準化（搭載データ・項目の検討、実装）

✓ データベースの連携方法、連携頻度等の更なる改善へ
✓ 会議等の場での活用事例の蓄積や横展開を通して、ダッシュボードの活用を有機的に繋げていく

助言、又は不明点等についてご発言をお願いします。

○不足している観点・視点等について

- 取組全体の方向性・データの利用方法
- 搭載を検討すべきデータ
- 学校でのダッシュボードの普段使いに向けて必要なアクション
- 不登校等の予測に向けたデータ分析　　など